

これからの介護施設等の在り方等に関する論点整理

介護施設等の在り方に関する委員会

これまで6回にわたって開催された本委員会で議論された、将来の介護施設等の在り方等に関する論点を以下のとおり取りまとめた。

なお、短期的に基準や報酬等の在り方として検討すべきものから、理念として将来のあるべき姿に近づけるよう長期的に検討すべきものまで様々なものが含まれている。

今後、それぞれの性格に応じて、適切な場において検討が進められることを期待する。

1 介護施設等の在り方について

- 住まい・施設等の名称如何にかかわらず、介護サービス・医療サービスの使いやすさは差がないようにすべきである。
- 施設機能は、住まい・食事・介護・医療・見守りに分解できる。これらの機能をどのように確保していくべきか。
- 施設であっても、地域ケアの一環として、必要に応じて外部サービスを導入することにはどうか。
- 特別養護老人ホームとはケア付き住宅なのか、低所得者のための福祉施設なのか、介護保険施設と社会福祉施設の関係なども含めて、施設ごとの位置付けを踏まえた検討が必要ではないか。
- 施設が提供する付加価値サービスについては、施設と利用者との間で自由に契約し、料金徴収できる仕組みを考えるべきではないか。
- 介護施設等における食費、居住費に関する補足給付の在り方について、グループホーム等における生活保護支給との整合性を踏まえて見直しが必要ではないか。

- ユニットケアの理念・効果・人員体制などを検証すべきではないか。
- 各介護施設における医療提供システムと医療サービスの実態を比較検証すべきではないか。

2 高齢者の住まいについて

- 我が国における住宅政策の方向性の変化を踏まえつつ、見守り機能を含めて高齢者の多様な住まいの在り方について考えていく必要があるのではないか。
- 高齢者の住まいの将来像に合わせたケアシステムを検討すべきではないか。
- リバースモーゲージ、持ち家賃貸などによる住み替え支援など、住宅ストックを活用した高齢者の住まい方を誘導する仕組みを考えるべきではないか。

3 介護サービスの在り方について

- これからは「自己完結型」のケアではなく、様々な地域資源を組み合わせて利用する「地域内完結型」のケアに向かうべきである。
- 法制度上の手続きや用語等を含め、制度全般についてよりわかりやすく簡素なものにすべきではないか。
- より質の高いサービスの提供に向けた人材育成、潜在する人材の参入を促す仕組み等について考えるべきではないか。

4 医療との関係について

- 高齢者の生活の場である介護施設等におけるターミナル・ケアの在り方や最期を迎える療養の場所について考えるべきではないか。
- 在宅療養を支えるため、病院・診療所や訪問看護系サービスがより広く対応できる仕組みが必要ではないか。
- 介護施設においても、医療保険と介護保険からの給付がサービスに応じて効率的、重層的体系となるよう給付の内容について考えるべきではないか。
- 住まい、施設であっても医療サービスの利用において同じように地域医療を活用できるように見直していくべきではないか。
- 特別養護老人ホーム等における医療処置の必要性への対応はどうあるべきか。
- 介護職による医療行為についての考え方や介護施設の職員配置の在り方について検討すべきではないか。